



関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

過去最高の来場者を迎えた オープンキャンパス



本学のオープンキャンパスが8月3日と11日の2回にわたって開催され、入試や学生生活に関するガイダンスのほか、模擬講義や施設見学などが行われました。=写真はシミュレーションセンターの見学の様子(8月3日)

詳しくは8・9ページ

CONTENTS

特集 滝井病院リニューアル事業計画本格始動	2	附属看護専門学校	21
法人 就任挨拶	4	卒後臨床研修センター	22
大学 枚方学舎でオープンキャンパス開催	7	同窓会	23
病院	16	メディア情報・お知らせ	24

特 集

待望の附属滝井病院リニューアル事業計画 本 格 始 動

現在の診療体制を維持しつつ計画を遂行します

リニューアル決定に至るまでの経緯

～ 2012

附属滝井病院は、昭和7年に開院後、約80年間にわたって地域の中核病院として高度かつ安心・安全な医療を提供してきました。しかし、建物をはじめ一部の施設・設備の老朽化、狭隘化が進み、急性期医療を担う病院としての一層の発展が期し難い状況にあることから、リニューアルの必要性が指摘されてきました。

近年の附属枚方病院、香里病院、枚方学舎の建築など中長期ビジョン“アクション2015行動する関西医大”の順調な進捗と本学の財務状況の改善により、「附属滝井病院リニューアル事業計画」の実行が昨年5月の理事会において決定されました。



計画策定を伝えた
広報Vol.18
平成24年8月30日発行

2012～

計画発表から1年間の歩み

～ 2013

旧10号館(左)と旧4号館(右)解体後は駐車場になります。



リニューアル事業計画に向けた手続きほか諸準備を進め、2013年6月には施業者が株式会社竹中工務店に決定しました。先ず小児科及び脳神経外科外来などの準備移転工事に着手し、10月から旧専門部学舎4号館(研究棟)及び10号館(旧清香寮)の建物解体工事が始まりました。

新本館に関しては今春に基本設計が終わり、各部門のヒアリングや調整を行いながら実施設計と諸官庁への申請手続きが進められています。

2013～

リニューアル事業の執行体制

【施設整備企画室】

事業推進定例会議 (議長：施設整備企画室長)

リニューアル事業を総合的に管理、調整、策定し、円滑な事業の推進を図る

建築委員会

委員長：施設整備企画室長

リニューアル事業の施設、設備、付帯諸施設等の建築計画を策定、推進する

運営委員会

委員長：滝井病院長

リニューアル後の組織機構・診療体制、医療の質、診療機能などを企画、立案及び調整を行う

今月からいよいよ本事業計画の先鋒工事である、既存の建物の解体工事が始まりましたが、リニューアル事業を確実に遂行するためには、強固な学内執行体制の確立が必要不可欠となります。

このことから、施設整備企画室に滝井リニューアル事業推進定例会議を組織し、その下に、施設、設備、付帯諸施設等の建築工事計画を策定・推進するための建築委員会と、リニューアル後の診療体制、部門機能、各部門の近接性など病院運営の相互調整を行うための運営委員会を置きます。具体的にはそれぞれの委員会で審議した事項を事業推進定例会議で決定していき、迅速かつ円滑な事業の遂行を図ります。

住民説明会 の開催

滝井地区は道幅が狭く、民家や学校などが隣接しています。リニューアル工事を行うということは、騒音、粉塵あるいは交通量の増加等さまざまな問題が発生し、近隣の皆様に多大なるご迷惑をおかけすることになります。工事を始めるにあたり、教職員等の関係者だけでなく、近隣の住民の皆様に納得いただきご協力を仰がなければなりません。そのため住民説明会を開き、工事日程、安全対策等について、様々な角度からの資料を基に説明いたしました結果、みなさまにご納得いただきました。

特集

2013～

診療を止めない工事手順・日程

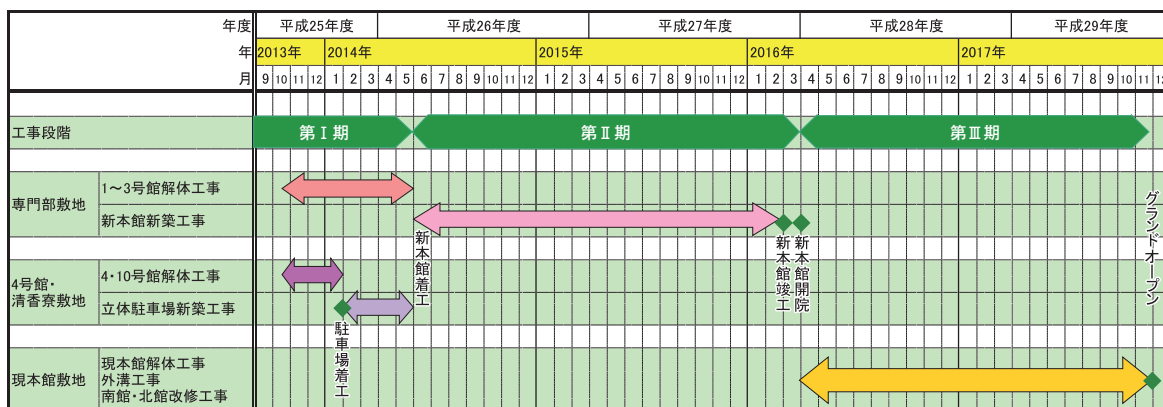
～2018

これらの計画を実行するに当たり、現状の診療を止めることなく進めなければなりません、そのために次の手順でリニューアル工事を進めていきます。

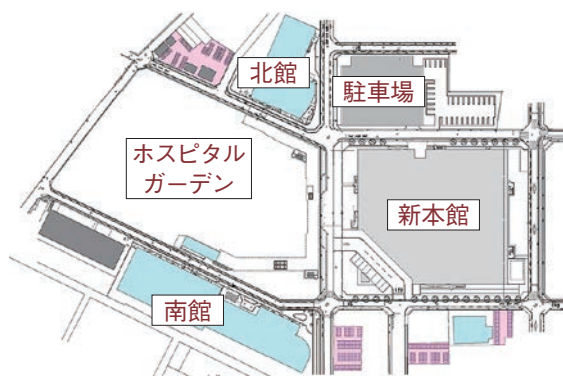
先ず第Ⅰ期工事として、旧専門部学舎4号館、10号館を解体し立体駐車場を造ります。これに並行して旧専門部学舎1～3号館を解体、新駐車場の完成を見て現駐車場を解体し、第Ⅱ期工事として新本館を建築します。

第Ⅲ期は新本館オープン後、現在の滝井病院A・B・C棟、E・F棟を解体し、ホスピタルガーデンの造成工事を行います。さらにはこれに並行して南館、北館の改修工事に着手します。

これらの段階を経ることにより、1日たりとも現在の診療を止めることがなく、患者の皆様安心して治療に専念していただけます。



施設の概要



グランドオープン後の施設配置

新本館は、高度で最先端の医療機器を有する地域に密着した急性期医療センターとしての機能を備えた病院を目指しています。

大学跡地に地下1階、地上6階、延床面積約2万4千800㎡の新本館を建設、急性期医療に対応した各種診療科外来、手術室(13室)、集中治療室、及び外科系を中心とする300床の病室を配置し急性期医療を充実させます。

次に既存の南館と北館ですが、大規模改修の後、約200床の病室や管理部門を設置します。この改修により、新本館はもとより全ての病室が4床以下となります。病院総延べ床面積に占める1床あたり約90㎡というゆとりのある病院となり、これらの各棟はセミオープンの地下通路で結ばれます。

また現在のA・B・C棟、E・F棟跡地には患者の皆さんや住民の方々の憩いの場となる80m×100mのホスピタルガーデンを整備します。

この場所は災害時など非常時の緊急避難防災拠点として地域への貢献を図りつつ、附属滝井病院のさらなる将来計画にも備えることとなります。

附属滝井病院は進化します

平成29年、滝井病院のリニューアル事業は全て完了します。

昭和7年大阪女子高等医学専門学校附属病院として開設されて以来、85年の幾星霜を経て滝井病院は生まれ変わります。そして患者さん、地域住民や関係医療機関のみなさん、さらには教職員、学生など関係者の方々の大きな期待を背負い、また新たな進化の一步を刻みます。

今後も、広報は滝井病院の進化を追って皆様にお伝えしていきます。



リニューアル後の附属滝井病院本館(予想図)

法人

就任の挨拶

外科学講座消化管外科担当診療教授に就任して

外科学講座消化管外科担当診療教授 濱田 円



10月1日付けで、関西医科大学外科学講座消化管外科診療教授及び附属枚方病院消化管外科科長を拝命いたしました。ご推薦いただきました関係の方々に厚く御礼申し上げます。

私は高知県出身で、岡山大学医学部の卒業です。岡山大学第一外科の関連病院で研修の後、研究室にもどり食道癌とp53およびapoptosisの研究を行い、病棟勤務を経て1998年に

地元の高知県立中央病院に赴任致しました。2005年からはPrivate Finance Initiative (PFI) 事業のさきがけとなった高知医療センターにスライドし、2010年まで勤務致しました。既に消化器外科診療の中核をなすといっても過言ではない腹腔鏡下手術に黎明期から関わる幸運を得て、LADG(腹腔鏡下幽門側胃切除術)に始まり腹腔鏡下大腸切除術とくに直腸癌手術の定型化に尽力して参りました。

2010年からは教室の要請で広島市民病院へ異動し、当施設での大腸癌の鏡視下手術の適応拡大をはかりました。結腸癌に対する腹腔鏡下手術は国外では既にいくつかのRandomized Controlled Trialで開腹術に対する非劣性が証明され、本邦においても日本臨床腫瘍研究グループ(JCOG)0404での結果が近々発表されることになっています。

一方、進行直腸癌に対しては狭い骨盤の中で精度の高い腹腔鏡下手術は治療成績向上に大きな可能性を持っていますが、エビデンスはこれから作られていく領域です。本学に導入されたDavinciがこの領域の手術に与える効果は極めて興味深く、これを用いて成績向上に尽力したいと考えています。

食道癌の様に体壁に複数の切開創を要する手術では、特にその低侵襲性が期待出来ると考えられ、根治性を担保しつつこの低侵襲手技が確立されることは、極めて意義のあることです。胃痛においても、鏡視下手術の拡大視効果による手術の精密さが、正確な自律神経温存技術や正確な郭清技術に寄与すると考えられます。

また、手術成績はがん薬物療法や放射線療法の進歩にも大きく左右されます。臨床試験を通して、最良の治療方針を確立したいと考えています。

消化管外科は切除による根治性と同時に、術後機能がきわめて重要であり、これを追求することにより、多くの患者さんに喜んで頂ける診療が可能になると確信しています。関西医科大学から、より安全で確実な消化管外科診療が発信出来るように、そしてこの地域の皆さんの信頼を得られるように尽力したいと考えています。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

— 略 歴 —

昭和62年 3月	岡山大学医学部 卒業
昭和62年 4月	岡山労災病院整形外科 研修医
昭和63年 4月	岡山大学第一外科 研修医
平成 5年 8月	岡山大学第一外科 研究室
平成 8年11月	医療法人みのり会北川病院 外科医員
平成 9年11月	岡山大学第一外科 外科医員
平成10年11月	高知県立中央病院 外科医長
平成17年 3月	高知医療センター 外科主任医長
平成22年 6月	広島市民病院 外科部長
平成25年10月	関西医科大学外科学講座消化管外科担当診療教授

法人Topics

— 関西医大発展の礎を築く —

「常任理事会指定推進プロジェクトチーム(JPT)活動の報告」

平成25年8月の常任理事会に人事給与制度改革推進JPTから答申が報告されました。これをもって平成22年8月に設置された4つの常任理事会指定推進プロジェクトチーム(JPT)の答申が出揃ったこととなります。既に答申にもとづき改善改革が実行されている項目もありますが、この機会に各プロジェクトチームの答申にもとづく主な実行項目を紹介いたします。

【人事給与制度改革推進JPT】

人財育成に主眼をおいた「目標チャレンジ制度」は、試行導入2年を経て、平成25年度から本導入を実施いたしました。今後、制度のマンネリ化、形骸化を防ぎ、人財育成のためのツールとして活用し続けられるよう更に深化した制度とするため、「目標チャレンジ制度管理・運営委員会」とその下部組織として、職員からの目標設定や評価等に関する制度改善要望に対応し、阻害要因の調査等を実施する「目標チャレンジ制度検証改善室」を設置します。これにより制度の定着と更なる発展を目指し、改善改革に取り組み、人財育成と組織目標達成をアシストします。

【人材育成トータルプラン策定JPT】

人財育成中長期戦略策定を目的に活動し、総務部から人事部門の独立を主とした事務組織の再編、職員研修計画や人事異動・採用方針を策定し、実行に移しています。また資格試験制度の分析にもとづき、平成24年度から事務職係長以下を対象とした知識試験を実施しました。

【会議体合理化推進JPT】

大学、法人、病院の3班が分担し、会議体の簡素化・効率化について検証を行いました。特に専門部・教養部の統合により、教授会は第2火曜日に大学院医学研究科委員会、全学教授会、臨床系教授会、基礎社会系教授会、基礎社会・臨床系合同教授会、教養系教授会が開催されることになりました。

【平成25年度法人組織再編計画JPT】

学舎統合を機に、法人組織の効率化と業務運営機能の向上、人員配置計画策定を目的に活動が行われ、既に法人系列と大学系列を明確にした新しい「学校法人関西医科大学組織機構に関する内規」の改正や「法人事務局組織分掌規則」の制定など多くの法人組織の再編を実行しました。

法 人

寄 付 金

枚方キャンパス統合移転整備事業寄付金として平成25年7月1日から平成25年9月30日までにご寄付いただきました方々のご芳名（五十音順）を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。なお、募集当初から平成25年9月30日までの寄付金累計額は9億3,010万3千円です。

募集期間は平成25年12月末までとなっております。引き続きのご協力をお願い申し上げます。

<個人>

HP上では非公開とさせていただきます。

<法人>

関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金のご案内

平成25年12月末まで募集していますので、ご協力をお願いします。

1. 募集対象

同窓会会員、本学学生の保護者、教職員、本学関連の個人および法人

・個人の場合：特定公益増進法人申込書

・法人の場合：

- (1) 特定公益増進法人申込書
- (2) 受配者指定寄付金申込書

2. 募集金額

1口10万円

1口未満でも申し受けます。

3. 申込方法

寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印の上、お申度ください。寄付申込書は次の3種類がありますので、いずれかをご提出ください。

4. お問い合わせ先

関西医科大学枚方キャンパス統合移転整備事業募金委員会事務局

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

Tel：072-804-2146(直通)

Fax：072-804-2344

寄付金に係る所得税減税措置のご案内

最高で寄付金額の約4割が戻ってきます！

12月までにご寄付いただきますと、平成25年分の所得税減税の対象になります。確定申告の際に手続きを行えば、所得税の還付が受けられます。

減税手続についての詳細は、関西医科大学募金室までお問い合わせください。

募金室 TEL 072-804-2146(直通)

寄付者銘板に
お名前が刻まれます

枚方キャンパス内に寄付者銘板を設置し、12月末までにご寄付いただきました皆様のご芳名を末永く顕彰させていただきます（金額は掲額いたしません。ご芳名のみ掲額です。）。

7月～9月 主な出来事

この3ヶ月間の主な出来事をご紹介します。(記事掲載は太字)

法人	7/2	定期人事異動辞令交付式		
	8/31	新入職員座談会		
大学	7/2	学生と教員との懇談会	 <p>大学オープンキャンパス</p>	
	7/4	「国外臨床実習の成果」報告会		
	7/13	平成25年度医学教育ワークショップ		
	7/19	関西医科大学「知的財産セミナー」		
		7/20	Advanced OSCE	
		8/3、11	オープンキャンパス	 <p>平成25年9月学位記授与式</p>
		8/3	国民との科学・技術対話のパネル展示	
		8/22	平成25年度関西3医科大学研究医養成コンソーシアム発表会	
		8/23	クリニカルクラークシップ中間検討会	
		8/24	私立医科大学協会合同入試説明会・相談会	
		8/29～30	イノベーションジャパン2013	 <p>平成25年9月大学院学位記授与式</p>
		8/31	第5回健康沿線トークカフェ	
		9/7	平成26年度(前期)大学院医学研究科入学試験・論文博士語学試験	
		9/24	平成25年9月大学院学位記授与式	
	9/24	第12回医学会賞贈呈式		
病院	7/30	第8回クリニカルパス大会	 <p>Take ABI! 2013 in KANSAI</p>	
	9/16	TAKE ABI! 2013 in KANSAI		
枚方	7/20	Summerコンサート	 <p>ダヴィンチ手術始まる</p>	
	8/22	腎泌尿器外科でダヴィンチによるロボット支援手術が始まる		
	8/28	こども病棟夏まつり		
	9/1	歯科・口腔外科開設		
	9/21	市民公開講座		
滝井	7/2	七夕コンサート	 <p>中谷壽男教授へ厚生労働大臣表彰</p>	
	7/26	消防訓練		
	8/28	小児科と刀根山支援学校共催の滝井セミナー		
	9/7	第16回市民公開講座		
	9/9	中谷壽男教授へ厚生労働大臣表彰		
	9/10	自衛消防隊研修大会		
	9/21	第18回肝臓病教室		
香里	7/6	七夕コンサート	 <p>中谷壽男教授へ厚生労働大臣表彰</p>	
	7/6	第3回寝屋川市5大がん医療連携勉強会		
看護 専門学校	7/30、9/21	オープンキャンパス	 <p>看護専門学校オープンキャンパス</p>	
	9/27	球技大会		
卒後 臨床研修 センター	7/26	平成26年度初期臨床研修医採用試験		
	9/21	平成25年度第2回研修医勉強会		
	9/22	eレジフェア2013 in 福岡出展		
	9/28	平成25年度ACLS講習会(第1回)		

大 学

枚方学舎での初開催に774名が集う。

平成25年度関西医科大学オープンキャンパス



施設見学でシミュレーションセンターを見学している様子。今年は初めての試みとして、在学生在が参加者を案内しました。

8月3日(土)、11日(日)両日とも午後0時50分から午後5時30分まで、枚方学舎において平成25年度関西医科大学オープンキャンパスが開催され、2日間で計774名(このうち保護者は354名)が来場しました。

1階加多乃講堂では、3日は山下敏夫学長、11日は松田公志副学長(入試担当)の挨拶にはじまり、キャンパスライフやカリキュラム、入試概要に関する説明のほか模擬講義などが行われました。学舎内に在学生在が案内する見学会では、約1時間、講義室や実習室、シミュレーションセンター、オープンラウンジなど普段学生が利用している施設を紹介しました。学生食堂では個別の相談ブースも設置され、教職員や在学生在が受験や学納金、学生生活などの質問や相談に直接答える場も設けられました。このほか、授業で使用しているシミュレーターの体験コーナーや学生が編集する雑誌「水脈」の展示、3日には隣接する枚方病院の見学会も行われました。

現役学生との相談会



「わからないことはどんどん聞いて下さい。」

個別相談会では「受験相談」「学生生活相談」「学納金・奨学金相談」の各ブースが設けられ、教員、現役学生、事務担当者がそれぞれ参加者の質問に答えました。

「強く押してみてください。」

授業で使用している各種シミュレーターが展示されました。また、参加者が機器を使用した基本的なBLS(一次救命処置)の体験も行われました。



胸骨圧迫を体験する参加者

当日の様子

「医療の現場をその目で」

病院施設見学では手術部、臨床検査部、健康科学センター、放射線CT・MRI、ドクターズカーを巡り、参加者は興味津々の様子でした。



ドクターズカーを前に3次救急を説明



健康管理センターで運動機能を測る



オープンラウンジでの茶席

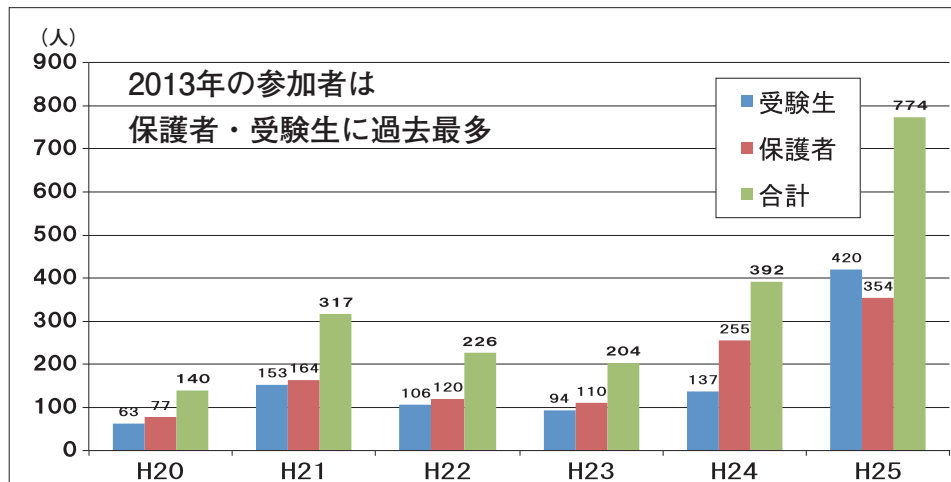
「ほっとひといき」

茶道部による茶席では、学生部員がお茶とお菓子で参加者をもてなしました。

大 学

オープンキャンパス参加者数の推移(平成20年度～平成25年度)

今年度は保護者354名、受験生420名、合計774名と過去5回と比べて最も多くの方々にご参加いただきました。平成20年度と比べると、保護者は4.6倍、受験生は6.7倍と大幅に増加しています。枚方学舎で初めての開催となり、当日の天候にも恵まれたことありますが、本学への関心が高まっていることが実感できます。



オープンキャンパスアンケート結果

参加者にアンケートをお願いしたところ、410名(63%)の方々から回答をいただきました。回答者の約9割から参加してよかったとの感想をいただいた今回のイベント、好評だった点をご紹介します。

2日間で好評だった企画は回答が多かった順に、キャンパスライフ説明、入試概要説明、カリキュラム説明、シミュレーター・BLS体験、キャンパス施設見学となりました。

8月3日に特に好評だったのは、入試概要説明でした。この日は高校3年生の参加が比較的多かったことから、受験直前に情報を得ようと集まった学生に満足度の高い情報を提供できたのが高評価につながったのではないかと考えられます。

8月11日は、3日に比べ、キャンパス施設見学やシミュレーター・BLS体験が好評でした。この日は、高校2年生の参加が比較的多く、大学入試への実感がまだ薄いながらも、医学そして関西医大に関心を持つ学生に、実際のキャンパスを見て、体験していただけたことが高評価につながったのではないかと考えられます。

フリーコメントの中には、病院やキャンパスの施設見学で、普段見えないところが見られてよかった。シミュレーター体験で実際に体験できたことが興味深かったなど、実際に本学に訪れたことによって体験できた企画に満足していただいたようでした。また昨年アンケートの中で在学生に会いたいとの声が寄せられていたことを踏まえ、今年度は、キャンパス施設見学の案内をこれまでの職員から在学生に変えたことなどから、施設見学で学生の案内がよかった。その他、個別相談で親切に対応してもらえたなど、在学生と触れ合える機会が増えたことに満足していただいたようでした。

教学関係人事

国際交流センター長再任

国際交流センター長に、友田幸一教授(副学長、教務部長、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)が再任されました。任期は平成25年8月1日から平成27年7月31日までです。

3学年クラスアドバイザー交代

3学年クラスアドバイザーの吉田学准教授(法医学講座)の定年退職に伴い、後任クラスアドバイザーに吉村澄孝助教(法医学講座)が選任されました。任期は平成25年7月22日から平成26年3月31日までです。

大 学

速報!!

平成25年度文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」に採択

平成25年度文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」に、本学の代表研究者中村加枝教授(生理学第二講座)の「経頭蓋磁気刺激(TMS)とモノアミン神経系動態のモニタリングに基づく脳幹—大脳皮質ネットワークダイナミクスの解明と磁気刺激治療の最適化」が採択されました。

プロジェクトは分担機関である大阪大学(代表研究者：小林泰准教授)、東北大学(代表研究者：筒井健一郎准教授)と共に進められ、研究期間は平成25年度～平成29年度までの5年間で総事業費211百万円の予定で、本学の配分額は73百万円となる見込みです。

本プログラムは、国として重要課題への対応等のため、国が研究開発課題を詳細に設定し、技術的な目標達成等の成果を重視して、優れた提案を採択する競争的資金制度である「国家課題対応型研究開発推進事業」のうち、『社会に貢献する脳科学』の実現を目指し、社会への応用を見据えた脳科学研究を戦略的に推進するため、文部科学省が平成20年度から実施している事業です。

平成25年度関西3医科大学研究医養成コンソーシアム発表会



休憩時間に奈良県立医科大学の学生(右、二人)と意見交換を行う、中邨智之 教授(左)

8月22日(木)午後1時から、枚方学舎1階第1講義室において関西医科大学、大阪医科大学、そして奈良県立医科大学の連携を深めるため、第1回研究医養成コンソーシアムの発表会が行われました。

27名の参加者の自己紹介の後、まずは本学の伊藤誠二研究医養成コンソーシアム運営委員会委員長(医化学講座)と奈良県立医科大学の藤本眞一教授(教育開発センター)からそれぞれの大学の研究医養成コースについて紹介がありました。

この中で、伊藤教授からは、学生が研究医を志す上で障害となる要素を取り除けるようなキャリアプランや支援制度を本学の研究医養成コースでは盛り込んでいることや、5月から研究マインド育成プログラムを開始し、現在1学年の学生8名がプログラムに参加していることが発表されました。藤本教授からは奈良県立医科大学が研究医養成コースを導入する際に学内で検討された理念、プログラムの作成や学生募集の方法、そして早稲田大学から学生が編入学することになった経緯などが発表されました。

続いて、奈良県立医科大学の2人の研究医養成コースの学生からは、早稲田大学入学後奈良県立医科大学に編入学した目的と、現在行っている研究が発表されました。本学の田中敏宏大学院生(内科学第三講座、病理学第一講座)からは、臨床医から大学院生として研究に携わることになったきっかけと、「舌糸状乳頭角化上皮細胞の維持・再生を担う舌上皮幹細胞の同定」と題した研究発表がありました。

発表会の最後には、本学の中邨智之教授(薬理学講座)から「生体の伸縮性を生み出す仕組みの研究」、奈良県立医科大学の工藤利助助教(法医学教室)から「アルコールによって誘発される突然死(内因性急死)のメカニズムの解明—血管機能とアルコールの観点から—」、大阪医科大学の東治人教授(泌尿器科学教室)から「浸潤性膀胱癌に対する新規膀胱温存療法‘OMC-regimen’の治療成績と今後の展望」と題した研究紹介が行われ、併せて自身が研究医を志したきっかけなどが紹介されました。

それぞれの発表の間には質疑応答の時間も設けられ、学生から研究の専門的な分野の質問や、教員からも学生に対し研究に関する質問があるなど、活発な議論が行われました。発表会后、枚方学舎の施設見学、4階カフェテリアでの参加学生と教員との懇親会が開かれました。

なお、本コンソーシアムは来年度から兵庫医科大学が加わり関西4医科大学コンソーシアムになる予定です。

大 学

医師不足診療科の医師確保に向けた奨学金制度創設

来年度(平成26年度)から新たに、本学附属病院の麻酔科、救急医学科を目指す5、6学年学生向けの奨学金制度が設けられることになりました。対象となるのは、本学附属病院での初期研修を優先志願し、引き続いて、本学の麻酔科、救急医学科に初期研修修了後3年以上勤務することを希望する5、6学年学生です。本学学生奨学金(特別枠入学)貸与規程による奨学金と併せて受給することも可能です。

貸与額は5学年時及び6学年時の授業料1/2相当額とし、毎年120万円を限度に貸与されます。本学での初期研修修了後、本学附属病院の麻酔科、救急医学科において3年間勤務すれば奨学金全額の返済が免除されます。

平成25年9月学位記授与式を挙行

授与式後の記念撮影



「平成25年9月学位記授与式」が9月24日(火)午後3時30分から、枚方学舎4階中会議室で挙行され、9名に博士(医学)の学位記が授与されました。山下敏夫理事長・学長から学位取得者一人ひとりに学位記が手渡され、さらに「皆さんの研究は直ぐに患者さんの役に立つものや、研究の積み重ねで役立つものもある、学位取得が終わりではなくこれからも研究を続け医学の発展に貢献するとともに、後進を指導してほしい」との激励の言葉が贈られました。

第12回医学会賞贈呈式を挙行

9月24日(火)枚方学舎4階中会議室において第12回医学会賞贈呈式が開かれ、6月14日(金)に行われた「第129回学内学術集談会」での応募口演による選考で同賞に選ばれた耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座の島野卓史助教に、山下敏夫理事長・学長から表彰状と褒賞金が贈呈されました。

今回の医学会賞には3件の応募があり、このうち島野助教の口演「Histological and Physiological Investigation of Channelrhodopsin-2 and Halorhodopsin in the Dorsal Cochlear Nucleus (背側蝸牛神経核におけるChannelrhodopsin-2およびHalorhodopsinの組織学的、生理学的検討)」が論文内容と発表態度からみて今後の研究活動の向上に資するところ大と審査された結果、今回の医学会賞に選ばれました。

なお、次回第130回学内学術集談会は平成26年2月14日(金)午後3時～午後6時まで、枚方学舎1階加多乃講堂で開催されます。



医学会賞を受賞し、山下理事長・学長から表彰を受ける耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 島野卓史助教

大 学

「ためらうことなく挑戦してほしい」 —「国外臨床実習の成果」報告会—

司会の中川淳教授



7月4日(木)午後5時30分から、枚方学舎1階加多乃講堂において「国外臨床実習の成果」報告会が開催され、小林陽之助名誉教授をはじめ、教職員学生合わせて141名が参加しました。

中川淳教務委員会臨床実習小委員会国外臨床実習担当委員の司会のもと、木下洋医学教育センター長の挨拶に始まり、今年度、アメリカ(バーモント大学・カリフォルニア大学サンフランシスコ校)、マレーシア(国立循環器病センター)、ドイツ(レーバークーセン総合病院)、カナダ(トロント小児病院)の4カ国5施設で

実習を行った8人の6学年学生が、実習内容や現地での生活、国ごとの文化の違いなどを報告しました。

発表後の質疑応答では、国外臨床実習を目指す学生から、海外生活での安全面を心配する声や、「自分は英語ができないのだがまず何をすべきか?」といった質問があり、実習を経験した6学年学生からは「先ずは自信をもって、英語を勉強し、機会があればためらうことなく挑戦してほしい。」との力強いエールが送られました。

実習報告の後には、フィンランドからMESSで受け入れを行っている交換留学生、Katri Niemiさん(ヘルシンキ大学)によるフィンランドの医療紹介と、友田幸一教務部長から来年度の国外臨床実習派遣について説明があり終了しました。



多数の学生が詰めかけました。

最先端の研究成果を紹介 —国民との科学・技術対話パネル展示—

熱心に教員の説明を聴き入る参加者



補助金(公的研究費)の年間平均配分額が3千万円以上の研究者が研究活動を説明する「国民との科学・技術対話」のパネル展示が8月3日(土)午後1時25分から枚方学舎1階オープンラウンジで行われました。

上野博夫教授(病理学第一講座)の「組織幹細胞の次世代イメージングを通じた治療標的膜蛋白質の同定と新しいがん治療法の開発」、木梨達雄教授(分子遺伝学部門)の「免疫系細胞の移動と働きを調節する

仕組みの研究」、中邨智之教授(薬理学講座)の「生体組織の伸縮性を生み出す仕組みの研究」、中村加枝教授(生理学第二講座)の「様々な種類の価値はどのように計算されるのか?」に関するパネルがそれぞれ展示され、各研究者(分子遺伝学部門は片貝智哉講師と植田祥啓講師)が参加者からの質問に対応しました。また、本学の学術研究関連施設を紹介するパネル展示や、附属枚方病院に導入された手術支援ロボット「ダヴィンチ」の紹介映像も放映されました。

この日は本学オープンキャンパスの開催日で、多くの高校生や保護者らが会場に足を運び、各研究者の研究に関する説明に聴き入っていました。

大 学

第31回医学教育ワークショップ

ワークショップ参加者



第31回医学教育ワークショップが7月13日(土)午前9時から枚方学舎1階加多乃講堂及び学生セミナー室で、教職員59名参加のもと、「チューター教育とチュートリアル」をテーマに開催されました。

今回のワークショップでは友田幸一教務部長による「6年一貫統合カリキュラム」、木下洋医学教育センター長による「完全型チュートリアルについて」と題した講演がありました。また講演に引き続きグループ討論が行われ、参加した教員は基本的疾患を持つ患者さんの一連の医療の流れとその医学的シナリオ、地域医療との連携、医事対策について、枚方病院のコメディカル職員を交えて

議論を展開しました。

参加者からは、他職種との連携の重要性を認識したとの声や、もう少し議論を深めたいとの積極的な意見もありました。今回のワークショップの結果はホームページ上に公開され、今後のチュートリアル教育に活かされていきます。

第5回健康沿線トークカフェ 「これからの健康“管理”は、自分でデータを“管理”しよう」

8月31日(土)午後3時から、関西医科大学附属枚方病院レストラン「のぞみ」において、第5回となる健康沿線トークカフェ「スマートヘルスケアへの取組」(主催：産学連携知的財産統括室)を開催し、本学教職員のほか、他大学教職員、企業、医療・介護、メディア関係者、北大阪商工会議所、枚方市役所等から総勢33名の参加がありました。

藤澤順一産学連携知的財産統括室長による挨拶に引き続き、大阪電気通信大学の田村俊世特任教授(福祉工学部理学療法学科)から「ICTを用いた健康管理システムの変遷」、本学の木村穰教授(健康管理センター)から「心身活動記録(PMRシステムによる地域活性化スポーツモデル事業)、本学の三島健顧問(産学知財産統括室)から「骨伝導素子を用いた機器開発とシステム化」と題し、3人の講演が行われました。

いずれの講演においても、出席者から各分野における実情や事例を交えた意見提案があるなど、非常に活発な意見交換が行われ、有益な議論が展開されました。



テーブルを囲み議論を交わす参加者

全国の私立医科大学(医学部)が一堂に会す

本学において平成25年度私立医科大学合同
入試説明会・相談会開催

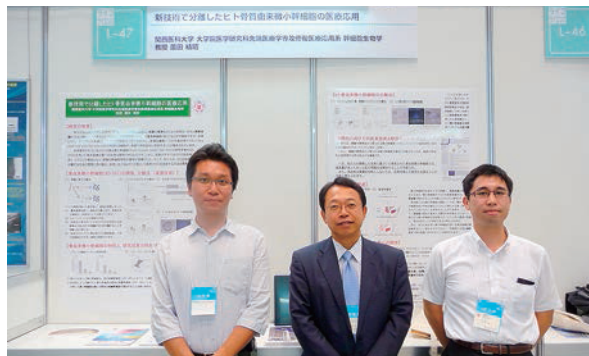
講義室で本学の説明を聞く参加者

一般社団法人日本私立医科大学協会主催の「平成25年度私立医科大学合同入試説明会・相談会」が、8月24日(土)午前11時から枚方学舎で、加盟大学29校(資料のみの参加6校を含む)が参加して開催されました。これは加盟大学が関東・中部・関西中国・九州のブロック別に、持ち回り形式で会場を提供し夏から秋にかけて年4回程度開催しているもので、今回は関西中国ブロックの担当として本学で行われました。

当日はあいにくの雨模様にもかかわらず来場された医学部を志望する201名(うち受験生45名)の参加者は、各大学の特徴や入試概要の説明を聞くとともに、それぞれが設置したブースで個別に相談をされていました。

大 学

イノベーションジャパン2013 「知を力に ～関西医大の研究を躍動のステージへ～」



出展者(左から松岡助教、藪田教授、中塚助教)

8月29日(木)、30日(金)の両日にわたり、東京ビッグサイトにおいて「イノベーション・ジャパン2013-大学見本市」が開催され、本学からは、衛生学講座の藪田精昭教授、中塚隆介助教、整形外科学講座の飯田寛和教授および外科学講座の岩城隆二病院助教の研究グループが発明した「新技術で分離したヒト骨質由来微小幹細胞の医療応用」を出展しました。

本発明は、ヒト骨質を酵素処理することにより、小型の幹細胞(BD SSC)を効率的に同定・分離開発したもので、BD SSCは、既知の幹細胞とは異なる遺伝子発現パターンを示し、再生医療の新たな細胞ソースとなることが期待されます。

2日間での来場者数は、2万人を超え、本学ブースにも公的機関や企業10数社の来訪があり、出展者の説明に熱心に耳を傾けていました。

各大学とも自学での研究を少しでも多くの企業に知ってもらおうと様々なアイデアを出し、会場は溢れんばかりの熱気に包まれ、本学にとっても他大学、企業、公的機関の方々に本学の研究を知ってもらう貴重な場となりました。

新学舎施設紹介

枚方学舎では学生の皆さんがスムーズに授業を受けられるための電子掲示板システムや、リフレッシュできる場所などを整備し、快適なキャンパスライフをサポートしています。

■電子掲示板システムで有効に情報伝達



学生の皆さんへの情報伝達の円滑化を目指し、枚方学舎内に計6台(オープンラウンジ：2台、2階中央棟廊下：1台、3階中央棟廊下：2台、3階図書館：1台)の電子掲示板(液晶ディスプレイ)を設置しています。画面からは日々の時間割や注意事項など授業や学生生活に関する情報が、数秒おきに切り替わりながら表示されています。

1階オープンラウンジに設置されている電子掲示板の1台には、枚方学舎北棟屋上に設置されている太陽光パネルでの発電量が表示されています。

■多目的コートはリフレッシュゾーン



淀川河川敷側に整備された多目的コートはバスケットゴールが2台設置され、昼休みや放課後に学生たちが使用し、ボール遊びなどで軽やかに体を動かしています。運動によるリフレッシュが、勉学に対する高い集中力へとつながっているようです。

■カフェテリアは憩いの場



南棟4階には飲料や軽食の自動販売機が併設されたカフェテリアがあり、学生や教職員が休憩

憩時間に利用しています。天気の良い日にはカフェテリアから続く屋上庭園に出て、淀川から吹き込む風を浴びながら一息つく様子も見られます。

大 学

～「知的財産権」の保護に努めよう～ 知的財産セミナー

7月19日(金)午後5時から、枚方学舎加多乃講堂において、本学産学連携知的財産統括室主催(同病態分子イメージングセンター共催、枚方市及び北大阪商工会議所後援)で、国立大学法人山口大学の佐田洋一郎教授(学長特命補佐、知的財産センター長)を講師に招き、「関西医科大学知的財産セミナー」が開催されました。

佐田教授は、わが国における知的財産教育の第一人者であり、今回は、「医療と知的財産(あなたを守る知的財産の基礎から応用まで)」と題して、医療分野での業務や研究・開発を進める上で非常に重要となってきた知的財産についてご講演をいただきました。参加者は、実例や実際の商品見本による分かりやすい説明に熱心に耳を傾け、質疑応答時間では多くの質問が予定時間を超過するほど寄せられるなど、参加者の関心の高さが窺え、有益なセミナーとなりました。



商品見本を手に講演される佐田教授

自学自習環境が変わります。 —枚方学舎での自学自習について—

各施設利用状況や学生からの要望・意見等を踏まえ、自学自習のための場所の追加及び時間帯の拡大を2学期から行い、学内での自学自習環境を改善しました。

(1)新たに3階のセミナー室(1～18)での自学自習が可能となりました。

- ※注意点 ①平日、第1・3・5土曜日に利用できます。 ②午前9時から午後9時まで利用できます。
③飲食及び私物を常置することはできません。 ④事前申込制です。
⑤大学行事等で使用する場合は利用できません。

(2)図書館の開館時間を延長しました。

平日…午前9時から午後9時まで利用できます。 第1・3・5土曜日…午後6時まで利用できます。

(3)1階オープンラウンジが午後9時まで利用できます。

※その他注意事項

1. カフェテリアでの自学自習はできなくなりました。
2. 講義室及び2階以上のフロアのラウンジでの自学自習はできなくなりました。
3. 6学年は午後11時、1～5学年は午後9時までに下校することになりました。

教員と学生の意見交換 —教育に関する学生との懇談会—

7月2日(火)午後6時から枚方学舎4階中会議室において、本学の教育に関する学生との懇談会(教学懇談会)が開催されました。学生は各学年のクラス代表、教務委員、学館運営委員等20名、卒業生1名、教員は山下敏夫学長はじめ、3副学長、教務部長、学生部長、学医、図書館長、枚方・滝井病院長、教務・学生副部長、各学年クラスアドバイザー、医学教育センター長の18名、事務局として大学事務部から8名の合計47名が出席して、学生からの要望に対し教員が回答する形式で進められました。

教務関係では、出席管理システムのカードリーダーが混み合うことや、授業・実習と試験日程期間との重複を解消してほしい等の意見・要望がありました。また施設関係では、傘立ての設置等の意見・要望がありました。

これらの要望に対し、善処するが全ての要望を受け入れる事はできないので、柔軟な思考で新学舎に慣れて欲しいとの回答がありました。

大 学

剣道部、バドミントン部 個人戦で優勝 第65回西日本医科学生総合体育大会

「第65回西日本医科学生総合体育大会（西医体）」が、福岡県を中心として7県の会場で開催され、「関西」「中国・四国」「九州・山口」「東海・北陸」の4ブロックから44校が参加し、熱戦を展開しました。剣道部の安達賢太郎君、バドミントン部の中山健太郎君が個人戦で優勝、陸上女子（団体・フィールド部門）が準優勝するなど、本学学生が活躍しました。各競技の団体戦成績及び個人戦成績（8位以上入賞）についてお伝えします。なお、本学の総合成績は28位でした。

競技	種 目	成績	学年	氏名	競技	種 目	成績	学年	氏名
水泳	男子200mバタフライ	8位	6	住山 房央	陸上	女子団体	準優勝		
水泳	男子400m個人メドレー	5位	4	愛甲 一樹	陸上	女子フィールド部門	準優勝		
水泳	男子100m平泳ぎ	4位	4	愛甲 一樹	陸上	男子800m	7位	1	貞利 隆文
水泳	男子400m自由形	8位	4	杉田 亮	陸上	女子400m	6位	5	吉田 知紘
水泳	男子800m自由形	8位	4	杉田 亮	陸上	女子800m	2位	4	小野 未侑
水泳	女子50mバタフライ	8位	5	小山あかね	陸上	女子800m	8位	2	藤原 侑香
水泳	女子50m背泳ぎ	4位	3	早田菜保子	陸上	女子4×100mリレー	4位		
水泳	女子100m背泳ぎ	3位	3	早田菜保子	陸上	女子4×400mリレー	3位		
剣道	男子個人戦	優勝	4	安達賢太郎	陸上	女子砲丸投げ	4位	6	加藤 恵
剣道	男子個人戦	ベスト8	6	小池 廣人	陸上	女子円盤投げ	4位	5	佐藤結衣子
剣道	男子団体戦	ベスト8			陸上	女子円盤投げ	5位	6	加藤 恵
剣道	女子団体戦	ベスト8			陸上	女子ハンマー投げ	2位	5	佐藤結衣子
スキー	クロスカントリーリレー(縦走競技)	7位			陸上	女子ハンマー投げ	3位	6	加藤 恵
スキー	アルペン新人戦女子の部	5位	2	中村 仁美	バドミントン	男子シングルス	優勝	5	中山健太郎
					バドミントン	男子団体戦	4位		



健康いきいき通信

第3回 「医療者のワクチン接種」

秋になりました。冬を迎えて、医学部生、病院職員ではインフルエンザのワクチン接種が始まります。

近年世間でもワクチンが話題になることが多くなりました。医学部では、麻疹、風疹、おたふくかぜ、水痘の4種、加えてB型肝炎、そしてインフルエンザの免疫獲得のためのワクチン接種を行っています。今年は風疹の大流行があり、本学では初めて職員全員の麻疹、風疹、おたふくかぜ、水痘ワクチン抗体価の検査が行われました。

この結果、抗体陰性者や抗体価の低いものがかなりの数見つかри、ワクチン接種を行いました。かく言う私もおたふくかぜの抗体価が低く、ワクチン接種を受けた一人です。

一度罹患すれば一生かからないと思っている方が多いと思いますが、年とともに免疫が低下することはしばしばあります。医学部生は入学時に麻疹、風疹、おたふくかぜ、水痘の抗体価を調べ、抗体価の低いものにはワクチン接種を促します。医療関係者がこれらのワクチン接種を積極的に行い、全員に抗体を持たせようとするのは、これらウィルスの感染力が極めて強く自分が罹患すると他人に移す確率が高いからです。

病院には、免疫力が低下して感染しやすい患者さんや感染してしまうと重篤な病状になる患者さんがたくさんおられます。また妊婦さんが感染すると、子供に重篤な障害が起きることもあります。このような感染弱者が集まってくるのが病院ですので、医療者自らが感染源にならないように細心の注意を払っているのです。このため本学では、医学生が病棟実習に出る4回生の終わりまでに、これらの4種の感染症の免疫を獲得することを義務づけています。

今年は風疹の流行をうけて医療者の免疫獲得を改めて徹底したのです。このように医療者のワクチン接種は、自らを感染から守ることよりも、感染弱者を守るとい意味が大きいのです。

福永幹彦教授(学医・心療内科学講座)

病 院

TAKE ABI ! 2013 in KANSAI

簡単な手足の血圧測定で血管の元気度判定



足元が悪い中多くの方にお越しいただきました。



この日の目玉であるABI検査を受ける参加者

9月16日(月:敬老の日)午前10時~午後4時まで、枚方学舎1階オープンラウンジにおいて、一般社団法人日本心・血管病予防会の協力を得て、「TAKE ABI! 2013 in KANSAI」を開催しました。両手足の血圧測定検査であるABIにより、全身の血管年齢(元気度)を調べることで、狭心症、心筋梗塞、脳卒中の原因である血管の動脈硬化の予防を目的としたものです。この日は、前日から台風18号が接近し風雨が激しく大雨洪水警報が発令される等開催が危ぶまれましたが、開始時刻には雨風とも治まり、219名が受検されました。受検された方からは「自分の健康度が分かる、こういう催しはとてもありがたい、参加してよかった」などの声が聞かれました。

また、検査に並行して、午後0時から同学舎1階加多乃講堂で市民公開講座が開催されました。今回の催しに関係する「動脈硬化はがんより怖い!？」とのテーマで、今回の実行委員長でもある外科学講座の駒井宏好診療教授(附属滝井病院末梢血管外科)から講演があり、78名が受講されました。噛み砕いた分かりやすい内容の講演を熱心に聴くとともに、終了後活発な質疑応答が行われました。

(ABI : ankle brachial index)

第6回合同クリニカルパス大会 ~日々改善に努めています~

発表を行う、
枚方病院医療情報部病歴情報課
別所祐依診療情報管理士



7月30日(火)午後5時30分から、第6回合同クリニカルパス大会が附属枚方病院13階講堂、附属滝井病院南館2階臨床講堂、香里病院8階会議室の3会場をテレビ会議システムで結んで開催されました。宮崎浩彰准教授(附属枚方病院クリニカルパス委員会委員長、医療安全管理センター)による総合司会のもと、各病院からそれぞれ発表があり、枚方病院43名、滝井病院33名、香里病院36名の参加者が熱心に聴き入るとともに、活発な質疑応答が行われました。

●香里病院

「糖尿病教育入院パス」高橋延行准教授(香里病院内科、内科学第二講座)

集約的な治療を効率よく実践するために有用な、チームによる短期集中型の療養指導を行うため、糖尿病教育入院のクリニカルパスを作成しました。

「栄養指導件数増加への取り組み」スミス江利子管理栄養士(香里病院栄養管理部)

栄養指導の実施が可能なクリニカルパスに、栄養指導オーダーを組み込むことにより指導件数の増加を図りました。

●滝井病院

「診療情報分析室とクリニカルパスのかかりについて」射場貴士診療情報管理士(附属滝井病院医療情報部病歴情報課)

DPCと出来高払いとの差異による減収予防、及び在院日数の短縮に向けクリニカルパスの見直し提案を行いました。

●枚方病院

「バリエーション評価とDPCに基づいたクリニカルパス改訂について」別所祐依診療情報管理士(附属枚方病院医療情報部病歴情報課)

クリニカルパスに基づいた治療に対し、バリエーション(クリニカルパスで予想されたプロセスと異なる経過や結果)の発生状況を調査した結果、及びDPCデータ等により、新規クリニカルパスの作成や既存クリニカルパス改訂の提案を行いました。

発表者及び概要

病 院

附属枚方病院

診療強化最前線 枚方病院改修工事計画の現状

部長室・合同医局の跡地を有効活用し診療機能のさらなる改革・強化を図ります。

枚方病院では、開院8年目を迎え、3階の診療部長室、合同医局が枚方学舎に移転したことから、この跡地スペースを中心に更なる診療機能の強化と患者サービスの向上を目指し、次の部門の改修計画を立てて実行しています。

1. 歯科・口腔外科外来を3階に開設

本学の歴史の中でも初めての診療科となる「歯科・口腔外科」を3階外来ゾーンに隣接して設置し、9月2日(月)から診療を開始しました。

なお、関連して歯科用のX線撮影装置(パノラマ、コーンビームCT)を設置するために1階の放射線部門の改修も予定しています。



真新しい診察室

寄稿

— 歯科・口腔外科ではこんなことをします —

歯科・口腔外科科長 児島 由佳



外来は3階の病棟用一般エレベーター隣です

平成25年9月1日から、枚方病院内に耳鼻咽喉科所属としての歯科・口腔外科が開設されることになりました。

近年、医科において何らかの疾患を持たれる患者さんの口腔ケアが、合併症を出来る限り予防するという意味においても大変重要であると言われています。口腔ケアが術後の合併症をかなりの割合で減少させることも実証されています。

口腔ケアとは、検診、口腔清掃、義歯の着脱と手入れ、咀嚼・摂食・嚥下のリハビリ、歯肉・頬部のマッサージ、食事の介護、口臭の除去、口腔乾燥予防などがあります。

口腔領域の役割や疾患、またそのケアというものが全身疾患といかに関わりのあるものであるかということも踏まえても、医科の病院の中において歯科の存在は重要なものだと思います。

歯科衛生士による専門的口腔衛生管理にも重点を置き、手術および化学療法前後・放射線治療中の周術期口腔機能管理など積極的に行っていきたいと考えております。

また歯科口腔外科診療は多岐にわたりますので、周術期の患者さんのみでなく今後、地域の歯科医院との連携を図りながら、徐々に口腔外科診療にも幅を広げていく予定です。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

2. 2階の中央採血室を拡張

外来患者数の増加に伴い、採血検査の待ち時間が長くなり、患者さんにご迷惑をお掛けしていることから、スムーズに採血が実施できるよう、既存の採血室を拡張する工事を現在行っています。本誌がお手元に届くころには完成しており、広くなった採血室をご覧ください。

3. 3階にがん治療センターを設置

外来での抗がん剤治療の増加により、現在の化学療法センターも手狭になっていることから、3階の合同医局跡地スペースに、従来の化学療法センターを組織的に発展させ、がん治療の拠点となる「がん治療・緩和センター」を設置します。

4. 3階に新たな眼科検査室を設置

眼科の診療機能強化策として、3階の空きスペースに斜視・弱視及び電気生理の検査室を設置します。

5. 4階の手術室を1室増設

手術件数の増加に伴い、器材室を改修のうえ、手術室1室を増設します。これにより、現在の17室から18室の受け入れ体制となり、更なる診療体制の強化を図ります。

病 院

附属枚方病院

看護部企画 附属枚方病院市民公開講座 「認知症のいまを学ぼう！」

「認めあい、知り合い、笑い合おう。」



認知症サポーターの証である「オレンジリング」を左手にはめて講演する三宅講師

世界アルツハイマーデーである9月21日(土)午後2時から、附属枚方病院13階講堂において、附属枚方病院看護部企画市民公開講座「認知症のいまを学ぼう！」が開かれました。開催直前に地元のラジオ局「FMひらかた」により、会場から生中継で講座の内容が紹介されたこともあって、会場には150人の定員を上回る多くの人が詰めかけ、認知症の症状や、患者・又はその家族としての関わり方、予防方法などを学びました。

講座は先ず「認知症の予防方法について」と題し、認知症看護認定看護師の植留美さんから、認知症の原因や症状、そして、その予防方法について、講演がありました。続いて、認知症に関するNPO法人で活動し、自らも認知症サポーターである三宅眞理講師(公衆衛生学講座)から「認知症の人と踊るダンス」と題し、認知症に関する社会的な問題や、オーストラリアでの認知症ケアについて講演すると共に、認知症予防のための刺激と心地よいリズムを促す、歌とダンスが紹介されました。三宅講師が作詞を行い、作曲を歌手の奥野勝利さんが行った認知症予防のダンス「いっしょに踊ろう」では、手話バージョンにより会場に集まった参加者が奥野さんのピアノ演奏に合わせて踊り、社交ダンスグループの二組がダンスバージョンを披露するなど、会場が一体となりました。さらに、今回の講座を企画した看護部と事務部の有志による軽快なダンスも披露され、会場内は和やかな雰囲気に包まれました。

—手術支援ロボット「ダヴィンチ」手術開始—

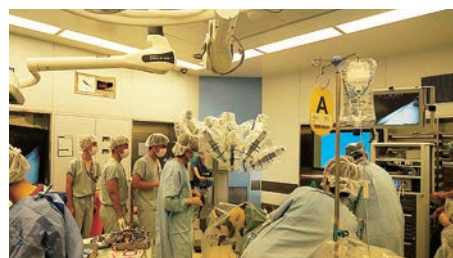
6月末に導入した最新式の手術支援ロボット「ダヴィンチ Si」を利用した初めての手術(前立腺摘除術)が8月22日(木)に行われました。

この術式は従来の手術より更に正確で緻密な腹腔鏡手術が可能となり、患者さんの体の負担も軽減できるなどさまざまなメリットがあります。

附属枚方病院は、これまで腹腔鏡下の手術で前立腺全摘除術を年に100例以上実施し、総計で750例以上の経験を持っています。この経験はロボット補助前立腺全摘除術にも十分活かせるもので、「ダヴィンチ Si」の導入によって、これまでと同じ手法で、より精密な手術ができるものと期待されています。

8月後半には、2例目の手術が無事終了しました。2例とも手術時間は短く、術後経過は極めて良好で、従来の腹腔鏡手術以上の治療成績が得られると期待されています。

現在、ダヴィンチ手術が保険適用されるのは、前立腺がんに対する手術だけですが、今後、腎部分切除術や膀胱全摘除術にも適応を広げられる見込みです。



初めての手術開始前



ダヴィンチを操る術者

ISO15189認定施設として承認

平成25年8月15日、附属枚方病院臨床検査部は、国際標準化機構(ISO)が定めた国際規格ISO15189の認定施設の承認を受けました。この規格は、臨床検査室の品質と能力に関する特定要求事項を提供するものとしてISOが作成した国際規格です。この認定取得により、検査精度と技術力が保証されたものとなり、臨床検査室から報告される検査結果の信頼性が高いことが証明され、国際的にも通用するものとなりました。



交付されたISO認定証

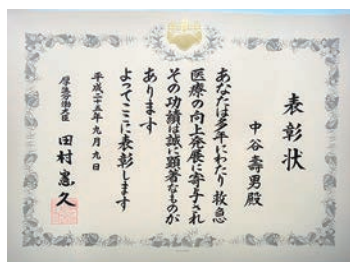
病 院

附属滝井病院

長年の救急医療に対する功績を表彰

平成25年度「救急医療功労者厚生労働大臣表彰」

中谷 壽男 教授



中谷教授に贈られた表彰状(上)と盾(右)

平成25年度「救急医療功労者厚生労働大臣表彰」を中谷壽男教授(附属滝井病院救急医学科、救命救急センター長、救急医学講座)が受賞しました。

この賞は長年にわたり地域の救急医療の確保、救急医療対策の推進に貢献した団体(医療機関を含む)や個人を対象として、都道府県知事の推薦をもとに、厚生労働大臣がその功績をたたえ表彰するものです。

授賞式は「救急の日」の平成25年9月9日(月)午後2時から中央合同庁舎第5号館(厚生労働省)低層棟2階講堂で行われ、受賞した19団体と個人15名の総代に田村憲久厚生労働大臣から賞状と盾が授与されました。

第55回自衛消防隊研修大会出場 日頃の訓練成果を披露



大会に臨む男性看護師チーム(左:1番員の山田創さん(3S病棟)、中:2番員の小林慧さん(1S病棟)、右:指揮者の松田浩行さん(4S病棟))

平成25年9月10日(火)、守口市門真市消防組合において、第55回自衛消防隊研修大会(主催:守口門真防火協会)が開催され、屋内消火栓競技の部に附属滝井病院の男性看護師チーム「ファイアウォーズ2」が出場しました。

大会当日は、管内事業所の自衛消防隊が、日頃鍛えた技・タイムを競い合う中、「ファイアウォーズ2」は絶妙なチームワークを発揮し、大健闘の末21チーム中、4位の成績を収めました。

なお、消防に関する秀でた技術、知識を修得したチームメンバーには、岩坂壽二病院長から「消防指導員」の認定証が交付されました。

今後、各職場において、消防訓練や防火安全に関するリーダーとして、その技術、知識を有効に活用いただけることと思います。

なお、昨年度大会に出場された荒鹿聖人さん(83病棟)にも、「消防指導員」の認定証が交付されました。

STOP!

動脈硬化&乳がん！ 第16回附属滝井病院市民公開講座開催



9月7日(土)午後2時から守口文化センターエナジーホールにおいて、「ストップ!動脈硬化&乳がん!」~いつ受診するの?今でしょ!~をテーマに151名の参加者を得て、第16回附属滝井病院市民公開講座が開催されました。

動脈硬化と乳がんに関連した3題の講演が行われ、参加者は熱心に聴き入っていました。講演終了後にロビーで直接講師に質問する光景も見られるほどの盛況で、参加者から「とても分かりやすい講座で、引き込まれてしまいました。」などの感想が寄せられました。

講演題目

- 「全身の動脈硬化を早期発見!!」~足は動脈硬化の窓~ 駒井宏好診療教授(附属滝井病院末梢血管外科、外科学講座)
- 「あなたの足は大丈夫?」~糖尿病と足のお手入れ~ 大久保緑糖尿病看護認定看護師(附属滝井病院看護部)
- 「乳がんを早期発見!!」~あなたの胸は大丈夫?~ 山本大悟講師(附属滝井病院乳腺外科、外科学講座)

病 院

附属滝井病院

第7回滝井セミナー開催 「—子供を理解するために—」



滝井病院6階臨床講堂
いっばいに詰めかけた参加者

大阪府内の、小学校、中学校、支援学校の教職員及び教育関係者を対象とした滝井病院小児科と刀根山支援学校との協力による第7回滝井セミナーが、8月28日(水)に附属滝井病院6階臨床講堂で開催され、230名が参加しました。今回は、食物アレルギーや起立性調節障害の子供たちへの留意点や対応等について研修を行い、互いの教育の充実と発展をはかることを目的に行われ、本学からは谷内昇一郎准教授(小児科学講座)が「学校生活における食物アレルギーの対応—いかに事故を防ぐか—」、石崎優子講師(小児科学講座)が「起立性調節障害の理解と対応」と題して講演を行いました。

講演終了後は谷内准教授による個別相談も行われ、日頃抱えている悩みや疑問などについて相談する姿が見られました。

附属滝井病院患者送迎用無料巡回バス運行開始 「雨の日もこれで安心」

大阪市営地下鉄、大阪市営バスを利用されている患者さんの交通利便性を高めるために、10月1日(火)から「患者送迎用無料巡回バス(10人乗り)」の運行が開始されました。

附属滝井病院北館前を出発したバスは、京阪本通交差点北側角を左折した大阪市営太子橋今市駐輪場前に停車後、セブンイレブン守口京阪本通店付近に停車し、北館前へ戻ってくる経路で、平日午前7時50分～午後4時と土曜日午前7時50分～午後1時の間、2分おきに運行しています。(休診日除く)

停車する場所は、大阪市営地下鉄谷町線、今里筋線の太子橋今市駅や、大阪市営バスの地下鉄太子橋今市の停留所にも近く、京阪バスの太子橋バス停にも近い場所にあり、患者さんにより通院していただきやすくなりました。



病 院

附属香里病院

香里病院血管外来の夕診設置について
「寝屋川市域血管治療の中核へ」

平成25年10月7日(月)から、香里病院で血管外来(夕診)が開始されました。これまで寝屋川市周辺で血管の疾病を診られる医師が少なく、香里病院においても当該疾病になると他の医療機関への紹介を余儀なくされてきました。しかし、多くの糖尿病患者さんや透析患者さんが来院される現状では、その必要性から新たに夕診が設置されることになりました。

診察は、駒井宏好診療教授(附属滝井病院末梢血管外科部長、血管内治療センター長、外科学講座)が担当し、第1・3・5の月曜日に行われます。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科	○	○	○	○	○
小児科	○	○	○	○	○
乳腺外科	○			○	
婦人科		○			○
腎泌尿器外科	○			○	
耳鼻咽喉科	○	○	○	○	○
*整形外科		○			
☆血管外来	○				

* 整形外科は初診のみの対応
☆ 血管外来は第1・3・5週のみ

天満橋総合クリニック

関西医科大学関係者優待ドックコースを新設
天満橋総合クリニックは予防医療に取り組んでいます。

天満橋総合クリニックは、設立当初より予防医療を重視し、時代に先駆けて人間ドックや健診を一般外来診療から分離独立させる体制を構築、がんの早期発見や生活習慣病の予防に大きな実績をあげています。

この人間ドックは、私立学校教職員共済等の指定施設として、多くの皆様の受診をいただいておりますが、このたび新たに関西医科大学関係者の皆様の健康管理にぜひ役立てていただくよう優待ドックコースを設けました。

優待ドックのコースは、標準コース(男・女)、精密コース(男・女)を基本に、オプションで胸部CT、胃カメラ、喀痰検査など諸検査を加えることや、さらに附属滝井病院と連携したPET-CT検査をドックのコースに追加、もしくは単独で受診することもできます。

詳しくは、関西医科大学天満橋総合クリニック総合健診センター(TEL06-6943-2260、ホームページ: <http://www.kmu.ac.jp/temmabashi>)までご照会ください。

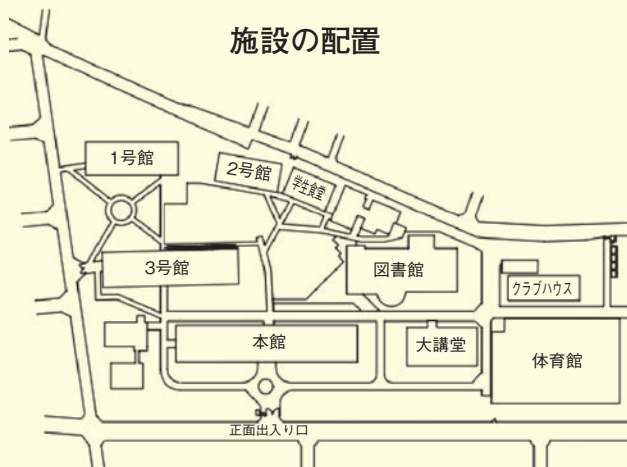
附属看護専門学校

約30年ぶりの里帰り、再び牧野へ 校舎移転

8月26日(月)、附属看護専門学校は高殿から牧野に校舎を移転し新たなスタートを切りました。

本学の看護教育の歴史を紐解くと、昭和7年滝井で看護婦養成所として産声を上げ、昭和47年からの8年間は牧野で看護教育を行っていました。その後、様々な組織変更などを経て昭和55年附属第一看護専門学校の開校を機に旭区高殿へ校舎を移しましたが、平成25年4月の大学統合移転に伴い平成25年8月、約30年ぶりに牧野の地に学び舎を構えることとなりました。

施設の配置



1号館 (1、2年の教室)

1階: 第1教室 (1年A組)、第2教室 (1年B組)
2階: 第3教室 (2年A組)、第4教室 (2年B組)

2号館 (3年の教室と諸設備)

1階: ラウンジ・討議室等
2階: 第5教室 (3年A組)、第6教室 (3年B組)

3号館 (実習室等)

1階: 第Ⅰ実習室、第Ⅱ実習室
2階: 第Ⅲ実習室、倉庫

本館の一部

校長室・講師室、教務室①～③、事務室・会議室等

その他

図書館、食堂

附属看護専門学校

牧野校舎で初のオープンキャンパス



在学生との相談風景

附属看護専門学校のオープンキャンパスが7月30日(火)と9月21日(土)に開催されました。牧野校舎では初めてとなる開催で、今回は両日合わせて244名の高校生や保護者が来場しました。会場では本校の概要説明が行われたほか、相談・質問コーナーが設けられました。概要説明では学びの特徴やサポート体制などについて分かりやすく解説。相談・質問コーナーでは、在校生が対応する相談ブースに加え、入試相談や保護者の相談エリアが設置され、参加者は気になる点について質問を投げ掛けていました。さらに、校内が開放され、参加者は図書館や実習室などを自由に見学し、学生生活のイメージを膨らませている様子でした。

また、7月30日には附属枚方病院の施設見学が行われ、80名が参加しました。

卒後臨床研修センター

平成26年度初期臨床研修医採用試験

平成26年度初期臨床研修医採用試験は7月26日(金)、7月31日(水)にそれぞれ筆記・面接試験を実施しました。受験者は113名で、このうち、本学出身者以外の受験者は74名でした。

<採用人数>

- ・附属枚方病院 プログラム 40名
- ・附属枚方病院 小児科重点プログラム 2名
- ・附属枚方病院 産婦人科重点プログラム 2名
- ・附属滝井病院 プログラム 9名

九州の学生へ本学をアピール eレジフェア2013 in 福岡 出展

平成25年9月22日(日)、医学生・初期臨床研修医向け研修病院説明会「eレジフェア2013 in 福岡」が福岡国際会議場で開催され、本学も研修医3名を派遣しブースを開設しました。

遠隔地開催での出展は2回目の試みでしたが、来場者総数497名中、30名が本学ブースを訪れ、昨年より4名増えました。今年の特徴は3・4学年の学生が26名も訪れたことで初期研修への関心が高まっていることが窺えます。来場者に配布した大学名入りのミニ団扇と蛍光ペンは大変好評でした。関心が低学年まで浸透していることや卒後帰阪予定の学生の獲得が見込まれることから、来年度も積極的に参加し、広報の拡充に努めます。

臨床研修医勉強会を開催

9月21日(土)午後2時から枚方学舎2階学生セミナー室2Aで臨床研修医勉強会が開かれました。研修医対象の勉強会でしたが、医師や医学生の参加も募ったことや、興味深い内容であった為、当日は多くの人で賑わいました。宮良高維診療教授(附属枚方病院感染制御部部長、内科学第一講座)から「抗菌薬使用の基礎知識」と題して、抗菌薬の定義や種類、作用機序とともに、その適正な使用方法について事例に基づいたQ&Aが示され、参加者たちは実際の使用現場を想定して真剣な眼差しで聴き入っていました。続いてファイザー製薬株式会社の講師により「エピペン注射処方医師登録講習会」と題した、命に関わる重症アレルギー反応に使用するアドレナリン自己注射器、エピペンを処方する為の登録講習会が行われました。

今後も11月から毎月、第3土曜日の午後2時より1年次研修医を対象に勉強会が開催されます。どなたでも参加できますので、興味のある勉強会には奮ってご参加ください。

開催日	時間	場所	テーマ(仮題)	講師
11月16日	14時～	枚方学舎	ハンズオンセミナー：心電図モニター	MEセンター
	15時～	シミュレーションセンター	心電図の読み方	循環器内科 前羽宏史助教
12月21日	14時～	枚方学舎	中心静脈穿刺について	麻酔科 岡本明久助教
	15時～	シミュレーションセンター	ハンズオンセミナー：超音波ガイド下穿刺	MEセンター
1月18日	14時～	附属枚方病院	人工呼吸管理について	麻酔科 西憲一郎講師、 小児科 大橋敦講師
	15時～	麻酔科カンファレンスルーム	ハンズオンセミナー：人工呼吸器の取り扱い	MEセンター
2月15日	14時～	合同カンファレンスルーム	中心静脈栄養・経管栄養	消化器外科 里井壯平准教授(予定)
3月15日	14時～	附属枚方病院講堂	病理診断のポイント	病理科 植村芳子教授

— 新たな歴史の幕開けに、集おう —

同窓会理事 立岩 二郎(41回生)



上:定時総会
下:研究助成金の贈呈



同窓会は、同窓会創立80周年、財団法人加多乃会設立40周年という節目の年に、新たな歴史の幕開けを迎えることとなりました。

母校、関西医科大学は、枚方新学舎が1月末に完成し、3月の竣工式・披露宴を経て、4月には新入生をはじめ、6学年全員を迎え入れ、全面オープンとなり、まさに教育・研究・診療が一体化しました。牧野・滝井に分散していた教育・研究機能が“枚方の地”に統合され、理想的な医科大学ができたのです。

同窓会本部も新学舎の最上階に移転しました。その同窓会スペースに同窓会・加多乃会大会議室が設けられたのです。

5月26日(日)には新しい同窓会本部の大会議室で初めて同窓会定例総会と評議員会が開催されました。また関西医大同窓会の誇りであり、全国の私立医科大学同窓会に類を見ない2,000万円以上という規模の研究助成金の贈呈式が行われたのち、加多乃賞はじめ各受賞者(9賞46名)の報告会が我が同窓会本部で行われたのです。

まさに、同窓会が世界へと飛翔していく若手研究者たちのために貢献しているということを実感した研究助成金贈呈式と各賞の報告会でした。母校と一体化したスペースで同窓会の一大イベントが開催できたことの感慨は大きいものでした。

引き続きの懇親会に新学舎3階にある学生食堂を利用しました。定例総会後の懇親会に学生食堂の利用は初めてでした。ホテルマンのいない接遇には不満は残ったものの、食堂の窓から眺めた、学舎中庭の緑の芝生、そして西には淀川、そして川越えに連なる山々に沈んでいく夕日は印象的でした。

そして11月3日(日・祝)には関西医科大学同窓会創立80周年、及び財団法人加多乃会設立40周年を記念してリーガロイヤルホテルで記念式典、記念講演(講師:田代裕関西医科大学元学長・名誉教授「関西医科大学の創設史、建学の精神と学風 -和辻春次・濱地藤太郎、教員と学生たち-」、そして祝賀会が行われます。

その翌日11月4日(振替休日)には、同窓会創立80周年記念親睦コンペが開催されます。大変ゴルフのお好きな山下敏夫理事長・学長をはじめ80余名が参加予定です。この企画には、同窓会・加多乃会主催の初めての親睦記念コンペに参加していただいたことがきっかけで、今まで同窓会活動に無関心であった会員の中から、一人でも同窓会の活動に参加していただければ、とのゴルフ好きの理事達の思いがあります。

「同窓会は、会員相互の親睦をはかり、関西医科大学の発展に寄与し、かつ医学をもって社会に貢献することを目的とする」と会則の総則にある通り、同窓会と大学が車の両輪のごとき関係であり続けることを望むものです。

同窓会事業は、会員の方々の会費で運営されております。“おとづれ”の会長音信で毎回秋田会長が述べられていますように、是非ご納入下さい。そこで高額滞納会員には耳寄りな情報です。創立80周年を機に、滞納額の減免策を理事会で検討中です。乞うご期待!

さて最後に11月3日の創立80周年記念祝賀会には、多数の同窓会会員に参加していただき、田代裕元学長・名誉教授のご講演を拝聴し「慈仁心鏡」のもと学歌「のぞみ」を声高らかに歌いましょう。

平成26年 関西医科大学同窓会 新年会のご案内

日時 : 平成26年1月25日(土)午後5時～
場所 : リーガロイヤルホテル大阪
担当 : 本部
会費 : 20,000円

多数のご参加をお待ちいたしております。

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。
(平成25年7月1日～9月30日 *判明分のみ)

山下 敏夫 理事長・学長	AERA 2013.7.1号	枚方学舎や本学が進める改革についてのインタビューが掲載されました。
高橋 寛二 教授 (眼科学講座)	日経メディカルオンライン 7月5日(金)	「加齢黄斑変性に新しい治療法が続々」というテーマの特集で、iPS細胞を用いた治療の実用化に対するコメントが掲載されました。
楠本 健司 教授 (形成外科学講座)	毎日放送「Voice」 7月8日(月)	カネボウ化粧品が美白化粧品を自主回収したニュースで「化粧品の使い方にも注意が必要」などと指摘しました。
高橋 寛二 教授 (眼科学講座)	産経新聞 7月29日(月)	7月6日に行われた第6回「目の健康講座」についての記事の中で、「網膜の病気について」の講演内容が掲載されました。
高橋 寛二 教授 (眼科学講座)	産経新聞 7月31日(水)	「iPS細胞を使った目の網膜を再生する臨床研究」に関する記事で、「夢の治療法だが、実用化まで10年かかる」といった内容のコメントが掲載されました。
関西医科大学	毎日新聞 8月9日(金)	9月16日(月・祝)に開催する「TAKE ABI! 2013 in KANSAI」の告知記事が掲載されました。
岡本 祐之 教授 (皮膚科学講座)	日本経済新聞 8月9日(金)	「真夏の光線過敏症」に関する記事で、飲み薬や貼り薬が原因になる「外因性」の病気で最も多い「薬剤性光線過敏症」に関して「症状を1～2年間放置すると慢性化し、薬をやめても治りにくくなる」といった内容のコメントが掲載されました。
朝子 幹也 講師 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)	週刊朝日 8月30日号	(知って得する新名医の最新治療 vol.292)という特集において、「慢性副鼻腔炎(蓄膿症)」の原因と治療方法についてのコメントが掲載されました。
松田 公志 教授 (腎泌尿器外科学)	産経新聞 8月21日(水)	(男性の更年期障害どうつきあえばいい?)という質問コーナーで、男性の更年期障害の症状のチェック方法や、治療方法について、特集記事が掲載されました。
川副 浩平 理事長特命教授	毎日新聞 8月26日(月)	三笠宮さまが心臓手術後に退院されてから間もなく1年を迎えるにあたって、執刀医としてのインタビュー記事が掲載されました。
西川 光重 教授 (内科学第二講座)	読売新聞 8月29日(木)	(医療ルネサンスNo.5646)において、薬の副作用によって甲状腺の働きに異常が出る事についてのコメントが掲載されました。
関西医科大学	日本経済新聞 (電子版) 9月19日(木)	産業技術研究所が開発した医療機器用のソフトウェアが無償公開されたという記事の中で、このソフトウェアを使い、本学と産業技術研究所と筑波大学とが共同で、遠隔手術手技指導システムの小型化に成功したことに係る記事が掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではございません。

お知らせ

編集後記

例年になく何日も猛暑日となり、記録的な暑さとなった夏をようやく乗りきったかと思えば、台風18号の接近に伴い、今までの警報に加え今年8月から始まった特別警報が京都府や滋賀県等に発令されるほどの大雨となり、各地に甚大な被害ができました。この異常気象はやはり地球温暖化のせいなのでしょうか。被災された皆様にはお見舞い申し上げます。

異常気象であっても季節は移るもの、通勤の道すがら聞えてくるのは、いつの間にか秋の虫の音となっていて心が癒されます。(T)

訂正

平成25年7月25日発行の「関西医科大学 広報 Vol.22」に以下の通り誤りがありました。お詫びの上、訂正いたします。

11ページ 平成26年度入試概要【一般入試・前期】
(2)理科 物質と原子(×)→物質と原子

関西医科大学広報 Vol.23

発行 学校法人 関西医科大学
編集 総務部 広報課
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
TEL 072-804-0101(代表)
FAX 072-804-2547

<http://www.kmu.ac.jp>

E-mail kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

平成25年10月31日(木)発行